



目は二つなのに物が一つに見えるのはなぜ

目で物が見えるということは

目は、物を見るところですが、目そのものが「物が見えた」と感じるわけではありません。目で物が見えるということは、目に入った光の像が、目のおくにある網膜というところにとどいて像を結び、これが神経を通過して脳に伝わり、はじめて「物が見えた」と感じるようになるのです。

一つに見えるのは脳のはたらき

物を見るとき、左の目と右の目は、ほとんど同じ像が目の中心にうつるように、目を動かしています。そして、右の目の外側半分は右の脳に、内側半分は左の外側半分に送られ、左の目の外側半分は左の脳に、内側半分は右の脳に送られることになります。

つまり、右の脳には、両方の目で見た右半分が送られ、左の脳には、両方の目で見た左半分が送られるのです。この二つが脳の中で合わさり、脳のはたらきで、二つの目で見た物が一つになり、全体の像が見えたと感じるわけなのです。（監修・保志 宏）

